

1. 本計画の位置づけ

本計画は、交通政策基本法に基づく「交通政策基本計画」や、板橋区のあるべき姿を示した「板橋区基本構想」、「板橋区基本計画 2025」を踏まえ、「板橋区都市づくりビジョン」をはじめとする、区の様々な計画と整合・連携を図りながら、区の交通政策全般に関する方向性を定めるものである。

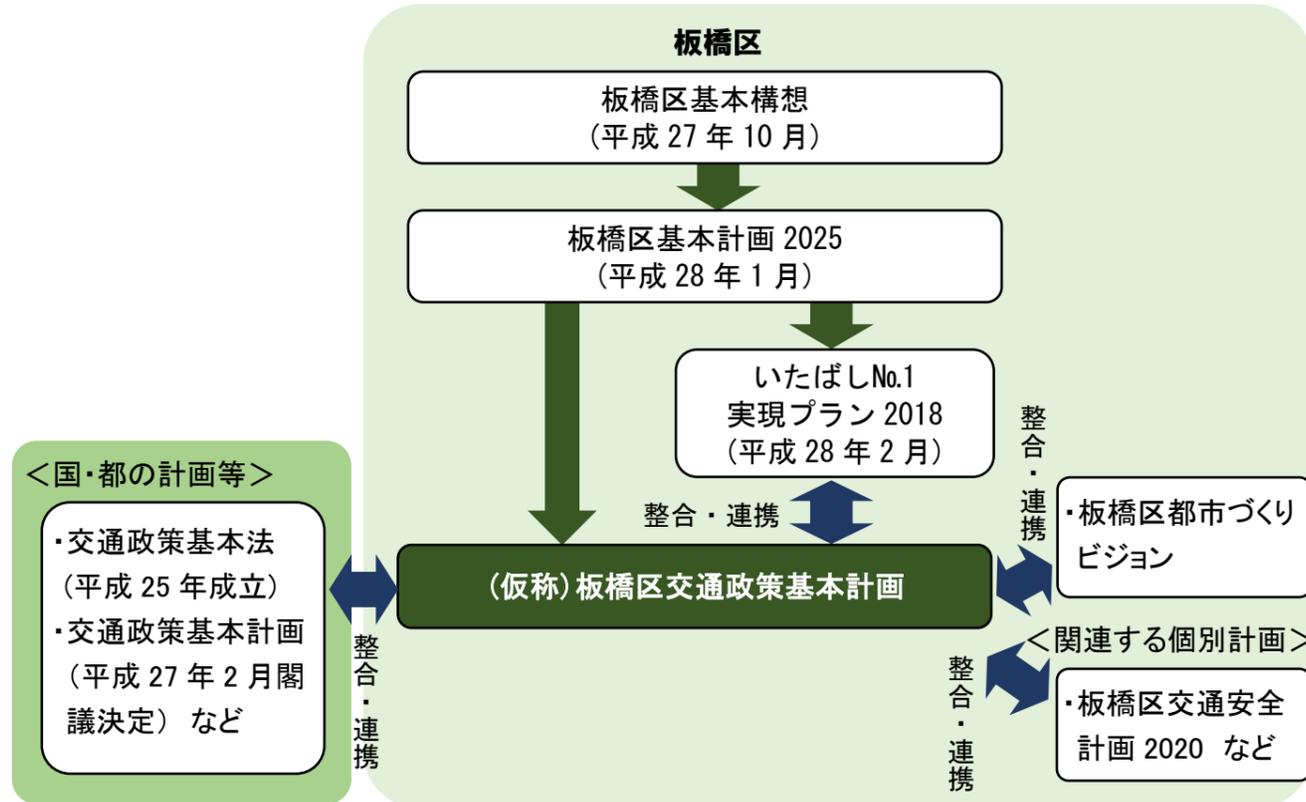


図 本計画の位置づけ

2. 本計画のめざすところ =「乗って、歩いて、住んでよし「人」が主役の交通都市」

- 少子高齢化や多様な価値観の拡大など、社会情勢の変化に伴って、近年では歩行者や自転車空間の重要性が再認識され、自動車を中心とした交通から「人」を主役とした交通への転換をめざしていく。
- また交通は、まちづくりの重要な要素であり、交通に関わる施策や事業は、交通を日常的に利用する区民をはじめ、行政機関や交通関係事業者が連携・協力して取り組む必要がある。このような取り組みを「交通まちづくり」と言い、交通に起因する様々な課題をそこに暮らす人たちとともに解消していくことをめざす。

- “交通まちづくり”は、従来の交通に関わる施策や事業を基本とし、子育て、福祉、観光、環境分野などの下図に示す9つの分野と連携することで、「人」の活動を支えるための基盤となる環境づくり（プラットフォーム）の役割を目的とする。
- よって本計画では、区の最上位構想の将来像をめざしつつ、下図に示す、交通の基本理念（案）を掲げ、区民を含む多くの主体者の参加と協働を基本とし、交通に関わる施策や事業が他分野と多角的連携による相乗効果（クロスセクター効果[※]）を発揮することを目的とする。
- 交通の基本理念（案）のもと、3つの基本目標を定める。
 目標Ⅰ 様々なライフステージにおいて安心・安全に移動でき、暮らせる
 目標Ⅱ 多様な交通手段によりだれもが快適に移動できる
 目標Ⅲ 魅力的なまちを支える持続可能な交通環境をつくっていく

※) 1つの分野で行われる施策が他の分野にも効果が波及し、投資額以上のメリットを発揮すること。

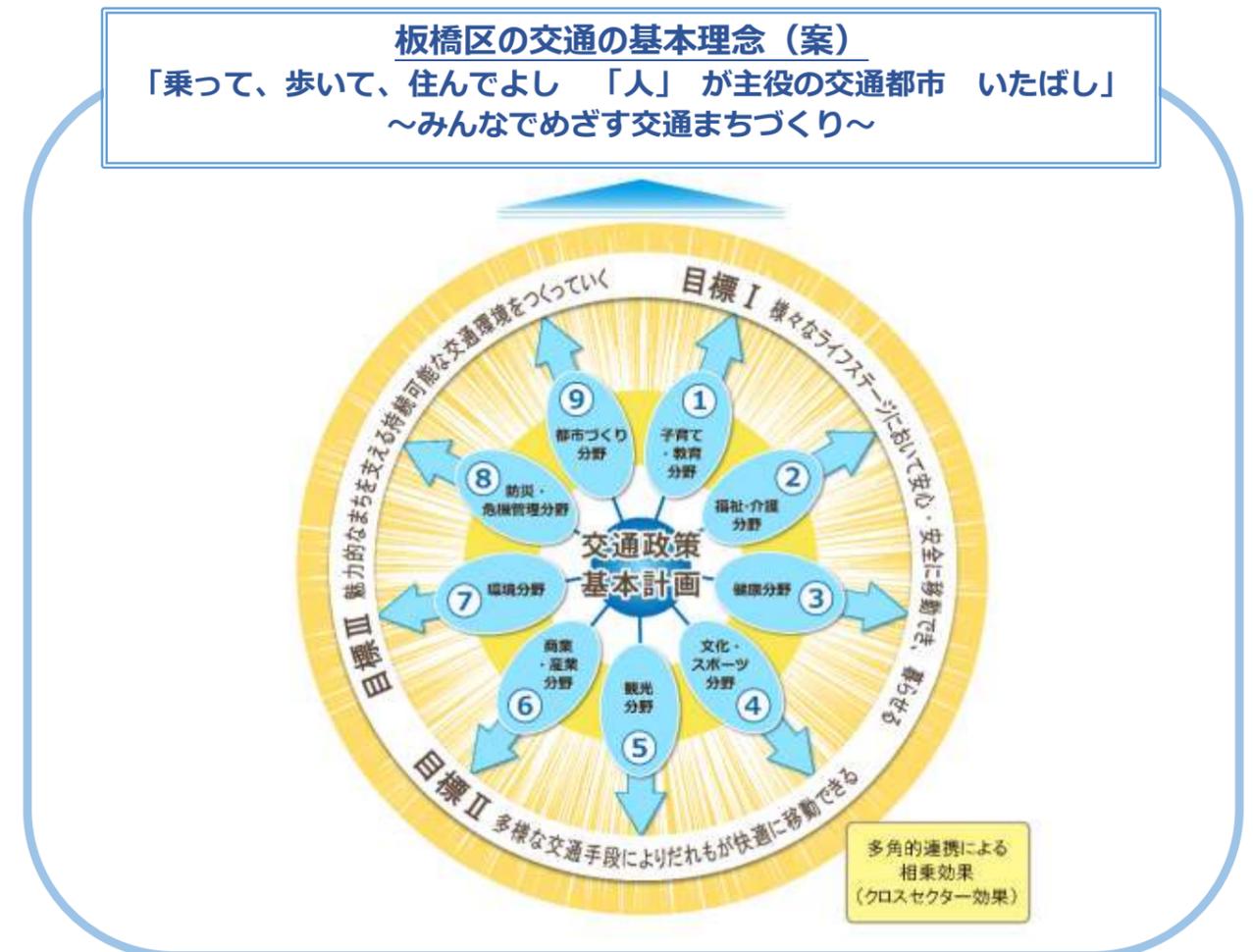
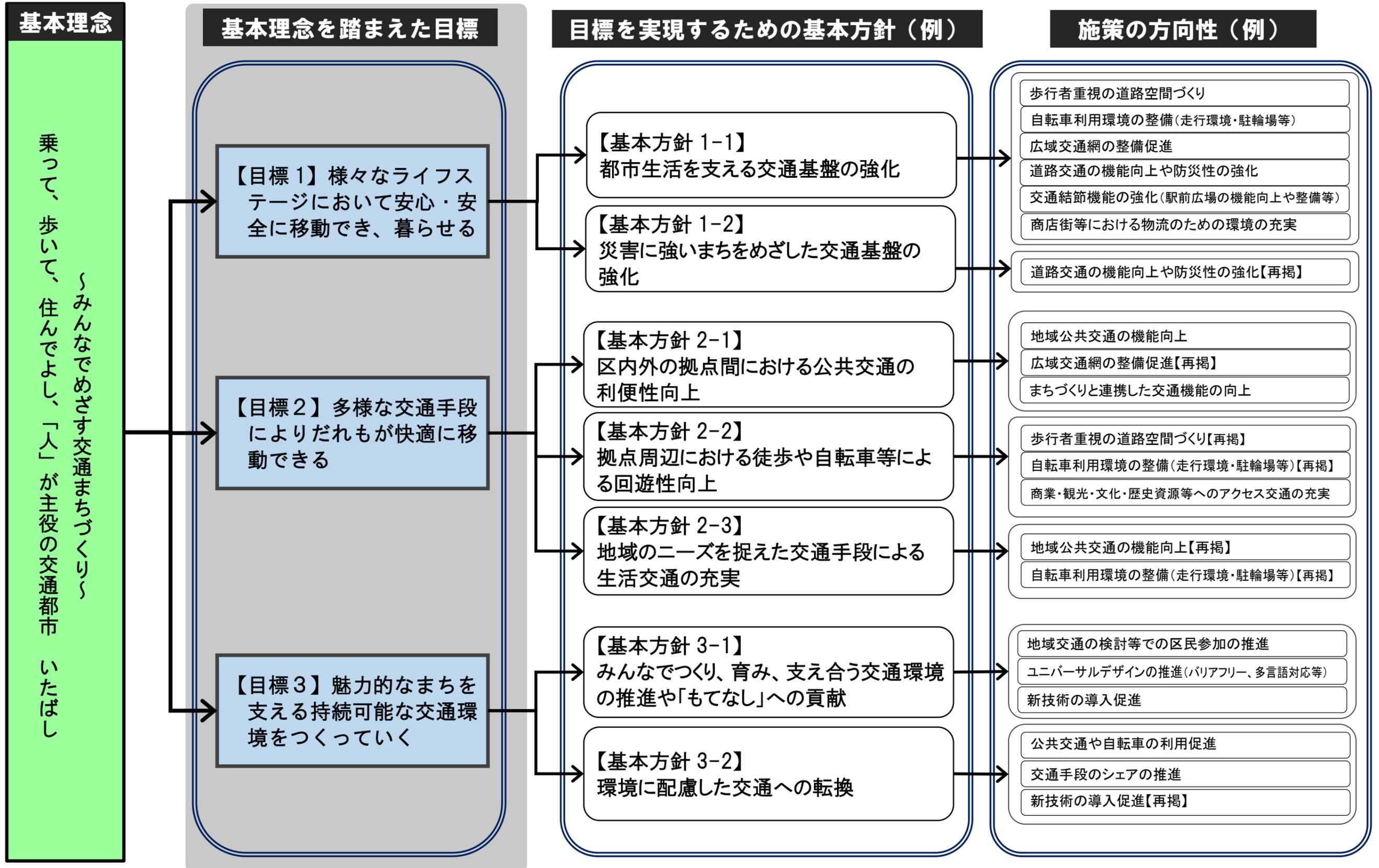


図 交通の基本理念（案）をめざす上での概念図

3. 本計画の体系



4. 基本理念(案)を踏まえた目標について

【目標1】様々なライフステージにおいて安心・安全に移動でき、暮らせる

〈概要〉

区の特徴として、身近な商店街のにぎわい、23区内でも有数の産業集積を誇るものづくり産業、自然や歴史を活かした街並み等が挙げられ、そのような地域特性の中で、様々な世代(ライフステージ)の方々が都市生活(通勤・通学、買い物などの移動、子育て、健康づくり、介護、文化・スポーツ活動等)を営んでいる。

また今回、実施したアンケート調査結果においては、「子育て世代・高齢者等の移動の安心安全の向上」や「災害に強い交通環境の実現」が今後の区に求める取組みの上位である。

このような区の地域特性や交通に関するアンケート調査結果を踏まえると、子どもや子育て世代、高齢者、障がい者等を含めた様々なライフステージにおいて、安心・安全に移動でき暮らしを支える交通基盤を強化していくことが必要である。

また、上述の目標にあわせて、災害時において、速やかに避難ができ、緊急車両などが通行できる輸送路が確保され、火災等の被害を最小限に抑える機能を持たせるなどにより、安全な生活を送れるよう、交通基盤を強化していくことも必要である。

〈区の現状・ニーズ〉

- 区民が今後求める取組みとして、「子育て世代・高齢者等の移動の安心安全の向上」が1位であり、特に高齢者のニーズが高い。
- 区民が今後求める取組みとして、「災害に強い交通環境の実現」が第2位である。

【目標2】多様な交通手段によりだれもが快適に移動できる

〈概要〉

区内には5つの鉄道路線があり都心・副都心等への利便性が高く、区民の鉄道やバスに対する満足度も高いが、パーソントリップ調査によると、鉄道がない環状方向については、自動車利用率が相対的に高い。

また、民間のシェアサイクルも導入されているものの、地域による偏りが見られることなどを踏まえ、基本理念(案)で掲げた自動車を中心とした交通から「人」を主役とした交通への転換に向け、多様な交通手段により、区内外の拠点間や拠点周辺において、区民や来訪者を含めた、だれもが快適に移動できる環境をめざしていく必要がある。

〈区の現状・ニーズ〉

- 平成29年度に実施した区民意識意向調査によると、区民の公共交通利便性に対する満足度は、区全体の平均では約7割であるが、一部の地域では低い傾向が見られる。
- 今回、実施したアンケート調査結果においては、板橋区への来訪者は、交通が改善した場合の来訪意向が9割以上と非常に高く、快適な移動環境の実現によりさらなる来訪の促進が期待される。

【目標3】魅力的なまちを支える持続可能な交通環境をつくっていく

〈概要〉

区の成り立ちを見ていくと、江戸期に、中山道(板橋宿)、川越街道(上板橋宿)の整備により宿場町として繁栄し、板橋宿に隣接して加賀藩下屋敷がつくられるなどの過去の歴史のしており、交通は、人が生活していく上で、必要不可欠なもので、様々な目的を持つ人々の往来に伴って、まちに、にぎわいが生まれ文化が発展してきた。

このような歴史的背景からもわかるように、交通が、まちづくりの重要な要素であり、交通に起因する様々な課題をそこに暮らす人たちとともに解消していく「交通まちづくり」をめざしていくことや、「板橋区都市づくりビジョン」においても、多様な主体が参画するまちづくりを掲げていることも踏まえ、魅力的なまちを支える持続可能な交通環境を継続的に、つくっていく必要がある。

〈区の現状・ニーズ〉

- 今回、実施したアンケート調査結果において、来訪者の板橋区への来訪理由は、「魅力的な飲食店・商店街があるから」が最も多い。また、シェアサイクルの今後の利用意向は約6割と高く、来訪したい場所は、「商業施設」に加え、「観光施設」「公園」も多い。
- 今回、実施したアンケート調査結果において、区民の地域交通の維持・充実に対する費用負担の考え方は、「公的支援によって現在の路線維持を優先して欲しい」が最も多い。
- 近隣市区においては路線バスの廃止や減便も生じており、区内においても今後は人口減少・少子高齢化による交通需要の減少や、公共交通の担い手不足により、バス路線を維持することが困難になる可能性がある。
- 一方、区の財政状況は、生産年齢人口の減少やさらなる高齢化の進展により、今後さらに厳しさを増すことが予想され、効率的で効果的な交通環境の充実を図っていく上では、交通を日常的に利用する区民や行政機関、交通関係事業者、交通管理者とともに施策の検討を行っていく必要があるため、「交通まちづくり」が求められる。